

進化する日豪関係

—今後の可能性と課題

在日オーストラリア大使館首席公使 ピーター・ロバーツ

*安全保障協力で日豪共同宣言

*日豪円滑化協定を結ぶ

*日豪三つの重要課題

*福島処理水放出のプロセスを信頼

*タスマニアビーフの成功例

*協力を超えたインテグレーションを

*長い歴史を振り返れば



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日はいくの台風接近で、公使にもたいへんなところ来ていただきました。公使にもたいへん。それから、皆さんもこの中をお越しいただきます。ありがとうございます。今日はいつもより席が空いておりますのでよろしければ前のほうに来ていただいても。今日のお話はリモートで見えていただく方もたくさんいらっしゃると思いますので、ひとつよろしく願います。

実は在外公館、要するに外国の大使館からここに来て講演していただいたのは、日暮事務局長は長くやっていますけれども、最近では記憶がないということです。記録を調べましたところ1933年12月24日にカール・クノルさんと

いうドイツ大使館の商務官が「ドイツの経済および政治情勢」ということで話していただいております。それから、もう一人、1934年5月4日、エース・アスコフさんというソ連の一等書記官が「ソ連邦の経済事情」というお話をされています。1946年までの記録ではこのお二人だけなので、おそらく在外公館の高官のご講演は久しぶりということ、よろしく願います（笑）。

公使は皆さんのお手元のプロフィールを見ていただくとわかりますように、Australian National University を卒業され、大学院も出られて、アジアの専門の学問を取られ、外務省に入られて、東ティモール大使をお務めになっていらっしやいます。2022年からは首席公使、